

令和元年度 晃陽中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1)基本目標：「人間尊重の精神」を基盤として、心身ともに健康で知・徳・体の調和のとれた、
心豊かでたくましい生徒を育成する。

(2)具体目標(具体的な児童生徒像など):◎長期目標として

◎たしかな学力をもつ生徒(知) ◎豊かな心をもつ生徒(徳) ◎強い体力・気力をもつ生徒(体)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

社会に貢献できる日本人を育成するため、生徒一人一人の自らの良さや持てる力に気付かせ、それらを伸ばしていく指導をもとに、確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む教育活動の充実を図る。さらに、人とのつながりの中で互いに支え合い、人に役立つことの意義が理解できる生徒を育成する。そのために、すべての生徒が安心して力を発揮できる学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 基本的な考え方

これからの共生社会を担う健全な生徒の育成を目指し、知・徳・体の調和のとれた教育を行う。そのため、正しい人間観を育てる教育を重視するとともに、社会性を高めるための諸活動を通じて、他者とよりよく生きる力を育成する。併せて、地域に開かれた信頼される学校づくりに努めるとともに、地域の教育力の活用に努める。

(2) 基本方針

- ① 学業指導を充実し、生徒一人一人の自己実現に向けた主体的・協働的な学習の推進と、社会との関わりの中で自分の生き方を見つめ考えさせるキャリア教育の充実を図る。
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と思考力、判断力、表現力の育成に加え、学力調査等の活用と学習習慣の確立による、確かな学力を育む学習指導を推進する。
- ③ 生徒一人一人の人格を尊重し、自己有用感と思いやりの育成を積み重ね、困難を乗り越えるたくましさを涵養する豊かな心を育む教育を推進する。
- ④ 生涯にわたって健康で安全な潤いある生活が送れるよう、健康教育と安全教育の充実を図り、強い体力・気力を育む教育を推進する。
- ⑤ 共生社会の実現を目指すため人権教育の充実とグローバルコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑥ インクルーシブ教育システムの推進に向けた特別支援教育の充実を図る。
- ⑦ 地域学校園小中一貫教育の推進と地域諸団体との連携、生徒の地域貢献活動の実践による、地域とともにある学校づくりを推進する。
- ⑧ 学校における働き方改革を推進するとともに、教育公務員としての使命と職責を自覚し、相互に高め合い学び合う協働的な同僚性の構築と、教職員の指導力と専門性の向上を目指す。

(3) 育てたい資質・能力

- ① 小規模校の強みを生かし、多くの体験学習を通して自己有用感を育てる。
- ② コミュニケーション力を高め、生徒相互の多様な力を認め合い、共感的な人間関係を育てる。
- ③ 自己決定の場を設け、その実現に向けて粘り強く取り組む意欲と態度を育てる。

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

「地域に根ざし、子どもが生き生きと活動する地域学校園」

－児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指して－

4 教育課程編成の方針

教育基本法及び学校教育法その他の法令、学習指導要領に従い、宇都宮市立学校の管理運営に関する規則第7条に基づいた、「宇都宮市立小中学校の教育課程及びその編成の基準」を踏まえ、生徒の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達や特性等を十分考慮して、本校の教育目標を達成すべく適切な教育課程を編成するものとする。

さらに平成29年告示中学校学習指導要領に示された、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則、市町村立小中学校管理規則、その他教育関係諸法規に従い編成する。
- (2) 教育課程改訂の趣旨をくみ、昨年度の反省に基づき、学習指導要領の精神に沿い、県教委より示された教育課程編成の手引きを参考にして編成する。
- (3) 学校教育目標の具現化を目指し、経営の方針に従い、本年度の努力点が達成されるよう、ゆとりある弾力的な教育課程を編成する。
- (4) 学校の実情や地域・生徒の実態に応じ、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間を計画する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 ○生徒が安心して力を発揮できる学校づくりのための指導と評価の充実

【学 習 指 導】 ○学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の学習習慣の育成

【児 童 生 徒 指 導】 自己有用感を育てる生徒指導と個別指導充実

【健康（体力・保健・食・安全）】 自他ともに健康で安全な生活を送ろうとする実践力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① キャリア教育と連携しながら、学習の動機付けを行っていく。 ② への学習等において、基礎的・基本的内容の定着を図り、自信をもたせる。 ③ 各種学力調査等の結果を活用し、より効果的な指導法の工夫に努め、学習意欲の向上を目指す。	B	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 91.8 % ・各種学力調査の結果を活用し、対応策を考えて取り組んだ。 ・への学習については手立てと内容について来年度への課題が残った。 ・各教科での補助プリントや教材の工夫により、授業へのモチベーションを高められた。 【次年度の方針】 ・への学習について、実施教科、内容等について教科部会にて検討し、生徒にとって実りあるものとして実施する。 ・教科ごとの指導の工夫について継続して実施する。 ・新学習指導要領の内容についてのさらなる理解を図り、主体的、対話的、深い学びの実現を目指し、指導・支援を工夫する。

A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 80%以上	① 道徳の授業で、「考える道徳」「議論する道徳」を展開し、生徒の道徳性を育てる。 ② 授業や学校行事でのより良い集団作りを目指す。 ③ 生徒の良い行いなどを認め賞賛する機会を多く作る。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 93.7 % 保護者 91.2 % ・友達同士優しい関係を築いているが、マナー的な思いやりには欠ける部分はある。 【次年度の方針】 ・道徳の授業を大切にし、指導法の工夫に努める。 ・すべき指導をきちんとする。その上でできたことを称賛する。
A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 90%以上	① 生活の一日の決まりやチャイム着席など授業時の約束事(準備・姿勢・返事)を実践させ、規律ある生活のリズムを身に付けさせる。 ② 道徳の授業などで、きまりやマナーを守ることの意義を理解させる。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 93.1 % 教職員 100 % ・大きな問題は発生していないが、マナー的なところでは課題がある。小さな違反が見過ごされている感はある。 【次年度の方針】 ・強制的に意識させるのではなく、生徒の自発を育てるような指導を工夫する。 ・職員の共通理解を図り、すべき指導をきちんとする。アンテナを高くもつ。
A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒・地域住民・教職員の肯定的回答 90%以上	① 教職員・来客者・地域の人に対して、心をこめたあいさつができるように努めさせる。 ② 生徒会の取組を活性化し、晃陽地域学校園あいさつ運動を定期的実践する。 ③ あいさつを相手の顔を見てできるように共通指導していく。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 98.7 % 地域住民 96.3 % 教職員 88.0 % ・集団でいるときは、元気なよいあいさつができています。一人一人になると個人差が見られ課題が残る。 【次年度の方針】 ・学校・家庭・地域で挨拶が飛び交うような土壌を作っていくよう呼びかけていく。 ・生徒会を中心に、挨拶運動を工夫し生徒の意識を高める。
A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 短期での実現可能な目標設定により、達成感・成就感を積み重ね、目標実現への自信を持たせる。 ② 学級経営や学校行事等で、目標を掲げ協力して取り組む中で、意義を見いださせる。 ③ スタンダードダイアリーなどを通して、あきらめず頑張っている生徒の様子をとらえ、認め賞賛する。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 84.9 % 保護者 79.5 % 教職員 72.0 % ・定期テスト、小テスト等を通して、自らの得手・不得手を意識させ、それらに対しての取り組み方を指導することで、最後まで取り組めるようにした。 ・自主学習では授業の復習をはじめ、定期テストに向けて自分に必要な学習を行わせることで、結果を活用しながら次へ向かう気持ちをもたせた。 【次年度の方針】 ・取り組みの継続と個別指導の充実を図る。特に学習が苦手な生徒への支援として、自主学習の課題を与え、基礎・基本の定着を目指す。

A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 健康診断や新体力テストの結果を生かし、自分の健康についての意識を高めさせる。 ② 自転車の安全な乗り方・交通マナーを常時指導で身に付けさせ、自転車事故ゼロを目指す。 ③ 「保健だより」「食育だより」等を活用し、保護者への啓発も図る。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 96.9 % 保護者 88.9 % 教職員 96.0 % ・全体的に肯定的な回答が多く、健康診断結果の通知、各種たよりも活用し啓発している。交通安全についても事故等も格段に減った。 【次年度の方針】 ・昨年度同様、各種結果やたよりを生徒や保護者に通知し、学校での取り組みについて積極的に知ってもらうように努めていきたい。また、交通安全についても、年度当初や各機会に生徒に意識づけをして、交通事故ゼロを目指していきたい。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 将来への見通しがもてるように、学校教育全般にわたってキャリア教育を推進する。 ② 地域の行事やボランティアへの積極的な参加を奨励し、地域に貢献している意識を体感させる。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 84.9 % 保護者 79.5 % 教職員 72.0 % ・学級活動、総合的な学習等により、各学年の課題を解決することができた。 ・地域小学校の運動会やあいさつ運動などに積極的に参加していた。 ・参加生徒へは「晃陽スピリット賞」を授与し、賞賛した。 【次年度の方針】 ・小学校と連携し「キャリアパスポートファイル」を作成し、小1から現在までの自分を見つめ直すことができるようにする。 ・掲示板に地域行事の情報を常に閲覧できるように貼付する。 ・活動の様子を掲示写真や学校だより等にて公開してモチベーションを高める一助とする。
A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 80%以上	① 英語の授業のウォーミングアップやペア学習などで、英語を使ったコミュニケーション活動を取り入れる。 ② ALTの給食や学校行事への参加を通して、生きた英語に触れる機会を充実する。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 95.6 % 教職員 96.0 % ・英語科の教科学習において、毎時間のウォーミングアップや対話等により英語を話す機会を増やすことができた。 ・教科系の英語科教師とのコミュニケーションも英語で行えた。 【次年度の方針】 ・ALTを活用する“Danny Time”の設定、ALTが給食・行事・朝会（学校・学年）・朝の会（各学級にて）等に参加し、生徒とのコミュニケーションを図る機会を作る。 ・今年度の対策は継続。

A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 80%以上	① 社会科・総合的な学習の時間を中心とした授業の中で、宇都宮に関連した話題を取り上げ、意識を高める。 ② 市の資料などを活用し掲示板を作成し、宇都宮の良さに触れる機会を増やす。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 84.9 % 保護者 61.3 % ・地元である宇都宮への意識づけができる話題を取り上げたり、資料を提供したりすることができた。 ・掲示板に地域の祭りや行事に関する資料の掲示を行い、地域行事への参加を促した。 【次年度の方針】 ・社会科、総合的な学習のみならず各教科での学習においても地元の話題に関する内容を取り上げる。 ・掲示板への資料の掲示は継続。
A 10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 80%以上	① 授業での調べ学習やまとめの学習において、I C T機器や図書を活用する機会を計画的に取り入れ、職員間で活用状況を共有する。 ② I C T機器・図書の活用の仕方を身に付けさせるとともに活用の有効性を認識させる。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 81.8 % 教職員 92.0 % ・国語科では週に1回、図書室の利用を意図して行った。 ・総合的な学習ではP Cを使った調べ学習やまとめを行った。 ・P C等の利用を各教科で行った。 ・図書館司書が授業に参加する機会が増えた。 【次年度の方針】 ・国語科だけでなく、各教科・領域に於いてI C T機器や図書室の利用を促進する。 ・図書館司書の授業時の活用を行う。
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 80%以上	① 道德教育を充実し、思いやりや感謝の心を育む。 ② 総合的な学習の時間で福祉教育を系統的に推進し、3年次に高齢者福祉施設との交流を行い、体験を通して意識の高揚を図る。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 93.7 % 保護者 91.2 % ・家庭や地域に高齢者が多いため、それをいたわる習慣は根付いている。将来高齢者を介護する希望をもつ生徒も多数いる。 【次年度の方針】 ・道德教育の充実を図り、共感的な理解を高めていく。 ・ねらいを明確にした体験活動を効果的に取り入れ、実践的意欲を高めていく。
A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 80%以上	① 教科・領域の学習の中で、環境問題や防災等を取り上げ、「持続可能な社会」に対する問題意識を持たせる。 ② ゴミの分別など、身近な実践を通して意義を理解させ、環境問題等への関心を高める。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 74.2 % 教職員 52.2 % ・生徒、教職員ともに数値指標を下回っている。特に教職員が低い。また、「持続可能な社会」の意味をよく理解していない教職員もいた。 【次年度の方針】 ・学校において、リサイクルや分別など目に見える形の活動は行っている。それが「持続可能な社会」につながっているということを意識させるためにも、牛乳パックやごみの分別を美化緑化委員の仕事として行うことで、活動がそこにつながっていると意識させたい。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 毎週のエデュケーション相談部会で情報交換を行い、支援を要する生徒に対して、教職員で共通理解を図り対応する。 ② S C Mを中心に全校体制で取り組み、S CやMSを活用したり外部機関との連携を図ったりする。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：教職員 100 % ・情報を共有し、職員が優しい心で接している。小規模校の利点を生かし、教職員が全校生徒を把握できている。 【次年度の方針】 ・組織的な取り組みが機能するように工夫し、個別の支援をしていく。 ・担任と学年主任の連携をよくして、担任の負担を減らすことも必要である。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・対応のため、アンケートを定期的に行う。 ② 各種たよりやホームページ等に取り組み状況を公表する。 ③ 定期的にいじめ防止対策委員会を開催し、具体策を検討し学校全体で取り組む。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 99.4 % 保護者 76.3 % ・いじめの数は少ない。 ・いじめアンケートから明らかになることが多く、定期的な実施が功を奏している。 【次年度の方針】 ・生徒の言動に注意を払い、アンテナ高く指導することでより良くなる。 ・学校の取り組みをHPで公開していることを広く周知していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 80%以上	① 認め励ます指導を通して、生徒の自己有用感を育み、生徒の居場所を感じさせる学級経営を展開する。 ② さまざまな情報から生徒の状況を把握し、生徒との相談や保護者との連携を密にして早期発見・対応を図る。	B 【【達成状況】】 ○肯定的回答：生徒 97.5 % 保護者 87.9 % ・職員がきめ細かに生徒を把握することで、不登校はゼロに近い。しかし不登校に陥りそうな生徒は数名いる。 【次年度の方針】 ・学級や学年での活動、各種実行委員会などを通して、関係生徒をしっかりと指導し、評価することで、自己有用感を高める。 ・早期発見・早期対応の意識を全職員で共有する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 生徒及び保護者が必要とする支援を把握し、関係機関との連携なども図りながら適切な支援を行う。 ② 学級経営で、相互理解とよりよい集団作りを推進し、学校や地域社会に順応しやすい土壌をつくる。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：教職員 100 % ・外国人生徒は現在いない。 【次年度の方針】 ・必要が出たら、関係機関と連携する。 ・組織的に取り組んでいく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 主体性や連帯感を育てるため、生徒が活動し活躍できる機会を意図的に作り、自己有用感を持たせる。 ② 道徳の授業の充実を図り、心豊かな生徒の育成に努める。 ③ 来校者への挨拶を充実させ、活気がある学校づくりを推進する。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 95.6 % 保護者 93.0 % 地域住民 96.3 % ・小規模校の強みを生かし、学校行事や生徒会活動で生徒一人一人の活躍の場が確保できている。保護者や地域の方々には学校行事等に対する関心が高く、生徒の様子をよく見てくれている。 【次年度の方針】 ・生徒一人一人を生かすような取り組みを継続し、さらに自己有用感を高めていく。 ・保護者や地域の方が学校に来る機会が増えるような工夫をしていく。

A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	① 分かる楽しい授業を実践して生徒の意欲を高めていく。 ② T・T・習熟度学習やかがやきルームの効果的な活用をなどで、個に応じた指導を工夫し基礎基本の定着を図る。 ③ 生徒個々の意欲を引き出すために、努力した点、成果が見られた点を意図的に賞賛する。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 95.6 % 保護者 84.9 % ・英語、数学の習熟度別学習を行うことで、個々の学習に対する取り組みが積極的になった。 ・学力調査等の結果の活用により、個々の生徒への指導や助言を緊密に行えた。 ・かがやきルームの利用と、担当教員の教室支援等の取り組みにより、個別の支援が充実した。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続し、特に個別の支援について、個々の苦手なことを本人と教員が共有し、対応策を考え、地道に取り組ませる。 ・新指導要領の理解を図り、“魅力ある授業”を展開するために、校内研修を充実させる。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 学校目標や学校経営の方針を全職員が意識し、共通理解のもと教育活動に取り組む。 ② 専門性を有する学校スタッフの職務内容や活用方法を検討し周知しながら連携を深める。 ③ 管理職を中心に、風通しの良い職員関係を構築する。	【達成状況】 ○肯定的回答：教職員 96.0 % ・職員それぞれの役割を意識し組織的な取り組みができています。職員間の関係も良好で連携がとりやすい。 【次年度の方針】 ・年度当初に、経営方針の共有化をしっかりと行い、職員一人一人の参画意識を高めていく。 ・専門スタッフの活用状況を随時周知し、波及効果を高めていく。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 出退勤時間管理を通して、職員への声かけを行い、意識付けを図る。 ② 校務分掌や業務の見直しや削減を検討し、校務の効率化を図る。 ③ 部活動方針に基づき、部活動の適正な運営に努める。	【達成状況】 ○肯定的回答：教職員 84.0 % ・学校行事前は退勤時間が遅くなる傾向はあるが、全体的には出退勤時間を意識して勤務できている。 【次年度の方針】 ・校務分掌の主務者に頼るのではなく、連携をとることで業務の均等化を図る。 ・引き続き職員の動向を把握し、心身の健康のケアをしていく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 計画的に運営会議・全体会・各部会を開催し、9年間を見通した指導ができるように連携を図る。 ② あいさつ運動・冒険活動の協同実施・中学校訪問など、小中生が交流する合同行事の充実を図る。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 84.3 % 保護者 91.2 % 地域住民 96.0 % ・計画的に活動しているが、生徒に見えるような工夫が必要。 【次年度の方針】 ・今年度の活動を継続していく。 ・あいさつ運動や冒険活動、教員の乗り入れ授業などの活動を撮影し、給食の時間などに TV で放映するなどして、活動情報の共有化を図る。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 総合的な学習の時間に、富屋特別支援学校や高齢者福祉施設等での交流・体験活動を系統的に位置づけ、福祉教育の推進を図る。 ② 地域の事業所での職場体験や地域の講師によるお囃子の演奏など、地域の方との交流を通して、地域理解を深める。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 93.7 % 保護者 94.4 % 地域住民 96.2 % ・地域での体験や交流活動は、生徒たちにとって有意義であった。オリジナルお囃子演奏は好評であり、生徒も充実感を得ていた。 【次年度の方針】 ・生徒や職員に負担にならない範囲で、地域の教育力が生かせるような活動を精選そして工夫をしていく。 ・お囃子演奏は、継続的な活動として取り入れていく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 保護者会や学校公開の活用、学校だよりなどの各種通知や学校ホームページでの情報発信の充実などを通して、開かれた学校づくりを推進する。 ② 地域協議会と連携し、情報の共有や学校運営参画機能の充実を図り、地域全体で学校をつくっていく体制を構築する。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 93.7 % 保護者 94.4 % 地域住民 96.2 % ・保護者や地域の方が学校に協力的であり、行事等への参加も多いため、学校の現状を理解してもらう機会がとれている。 【次年度の方針】 ・情報の発信を継続しながら、形骸化しないように工夫を重ねていく。 ・保護者や地域からの意見を集約するなど、双方向で情報の共有ができるよう工夫していく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者・地域住民・教職員の肯定的回答 80%以上	① 月1回の安全点検や日常の確認を通して、異常箇所の早期発見・修繕を行い、安全管理の徹底を図る。 ② 避難訓練や安全教育を通して、常に振り返りをしながら、危機管理マニュアルの見直しを検討する。	【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 86.7 % 地域住民 100% 教職員 100 % ・すべてにおいて肯定回答が数値指標を上回っており、安全に配慮した環境づくりが学校全体で行われている。 【次年度の方針】 ・安全な学校を目指し、安全点検や日常の確認を怠らず、異常があった場合にすぐに報告、対応できるように心がける。 ・避難訓練などをとおして、教職員・生徒が緊急事態に適切に対応し、安全を意識した生活を送れるようにする。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 80%以上	① ICT機器の整備や生徒及び職員からの図書購入希望調査を定期的に行い、必要に応じた準備をすすめる。 ② 司書を中心として、配架を工夫するなど活用しやすい図書室づくりを推進する。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 81.8 % 教職員 92.0 % ・生徒の肯定回答率が教職員に比べて低い。生徒にとって効果的な活用方法を工夫していく必要もある。 【次年度の方針】 ・今年度後半タブレットが導入されたので、効果的な活用方法を工夫していく。 ・図書の希望調査や購入状況等を広く周知していく。

本校の特色・課題等	B 1 学校は地域行事に生徒を進んで参加させ、他と協調する大切さを教えている。 【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 生徒に地域の一員であることへの自覚を促し、地域の行事やボランティアへの積極的参加を奨励する。 ② 地域へ貢献している生徒の姿を、学校だよりや学校の掲示板等で積極的に紹介する。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 96.1 % 地域住民 100 % ・自主的に地域行事やボランティアに参加する生徒が多く見られる。生徒たちに浸透しつつある。 【次年度の方針】 ・生徒・職員の負担にならないように、地域との連携を図りながら取り組む。
	B 2 学校は体験活動を通して、共感的な人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上	① 教科・領域等で体験学習を年間計画に系統的に位置づけ実践する。 ② 奉仕活動等「協働」の場の設定を工夫し、協働する中で望ましい人間関係の構築に努める。 ③ 学校行事や生徒会活動で協力して活動するなど、相互の多様な力を認め合う機会を多く設ける。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 94.4 % ・実行委員会などの活動が活発になりつつある。 ・様々な活動を直接見ることで、発表会やたよりを通して報告を行っていることが評価につながっている。 【次年度の方針】 ・行事での実行委員への指導・評価をよりしっかりと行う。 ・今後も活動報告を積極的に行う。
	B 3 学校は朝食をとらない生徒に対して、食生活の改善をするように指導している。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上	① 朝食の大切さを指導し、正しい食習慣が健全な心身の発達を促すことを理解させる。 ② アンケートにより、実態を把握し、改善を要する保護者と協力・連携を図り、改善に努める。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 78.4 % ・目標指標を 1.6%下回っている。学校で行う朝食アンケートでは、ほぼ 100%の生徒が食べていると答えているが、このアンケートと比べると 10%以上の差が見られる。 【次年度の方針】 ・朝食を食べることについて、小学校と連携するとともに、学校での朝食アンケートの形式を変え、より正確に生徒の実態をとらえていきたい。 ・朝起きるのが遅く朝食をとらない生徒もいると思われるので、規則正しい生活を心がけるよう、生徒指導の立場からも声かけを行い、朝食をとれる時間を作っていきたい。
	B 4 教職員は自覚と使命感に燃え、専門職として資質の向上に努めている。 【数値指標】 保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 分かる授業を目指し、日々の教材研究に励み、互いに授業を見せ合い研究するなど、授業力向上に努める。 ② 不安や悩みをもった生徒や保護者に寄り添い、良好な信頼関係が構築できるように努める。 ③ 保護者会・学校行事・学校公開日には、多くの保護者に参観してもらえるよう、魅力ある教師・学校づくりに努める。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 79.8 % 教職員 96.0 % ・校内授業研究会や公開授業により、教科指導の様々な工夫を共有した。 ・多忙な日々の中で、教材研究の時間をひねり出し「工夫した教材・教具の提供」や「楽しい授業展開」のための指導法の工夫などが行えた。 【次年度の方針】 ・わかる授業のための指導の工夫については継続する。 ・公開授業については、学校だより、学年だより、学級通信等を活用して、情報提供をきめ細かに行う。

B 5 学校は褒め励ます指導を全職員で行い、生徒一人ひとりの長所を伸ばそうとしている。 【数値指標】 保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 日々の活動の様子から生徒個々の良さを発見し、個性の伸長に努める。 ② 常に、褒め・認め・励ます指導を全職員が実践するとともに、生徒の良さを様々な機会を通して紹介する。 ③ 学年・学級経営において、生徒と教師・生徒間のコミュニケーションを密に図っていく。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 83.9 % 教職員 100 % ・教職員と保護者の回答率に差が見られる。教職員の取り組みが伝わりきれていないところがある。 【次年度の方針】 ・三者面談や部活動など保護者と接す機会に、生徒の良い面を認めていく。 ・生徒に対する情報を教職員で共有することで、一人一人の良さを広く発見していく。
--	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

ほとんどの項目で、数値指標を大きく上回っている。さらに市内中学校平均値と比べても、肯定回答率が5ポイント以上高い項目が多く、ほとんどの項目で上回る結果が得られた。

【市内中学校平均値と比較したアンケート結果からみられる本校の良い面】

○No.21・22・23「地域の教育力や連携・小中の連携」

地域の教育力を生かし、創立 50 周年記念事業で「晃陽中オリジナルお囃子演奏」「地域文化・遺産の展示」などを行うことができたのは、大きく評価された要因であろう。また、地域行事にボランティアとして参加することで、中学生にとって良い経験ができたし、地域の人に中学生の良さを見てもらう機会にもなった。

- ・ No.2・11「思いやり・いたわりの心」、No.3・17「落ち着いた生活・活気のある雰囲気」、No.14・15「いじめ・不登校対策」
やさしい生徒が多く、学校全体が落ち着いている。また、小規模校であることを生かしてきめ細かな指導ができていたため、いじめや不登校がほとんどないのも本校の強みである。

・ No.8・10・18・25「英語のコミュニケーション・ICT機器の活用・教職員のきめ細かな指導」

地域協議会ボランティアの研究授業自習見守りなどで、教職員の授業研究が充実している。また、今年度から1日の最後に、「メの学習」として10分間設けたことは、基礎基本や学習習慣の定着につながったと思われる。

・ No.19・20「教職員のチーム化・教職員の業務改善」

教職員の関係が良好で連携が取りやすく、職員それぞれが役割を意識し組織的な取り組みができている。専門性を有するスタッフも、主体的に学校に関わろうとしている。教職員は、勤務時間を意識して効率的に業務に取り組んでおり、退勤時間が早くなっている。職員の勤務時間に対する意識改善はできつつある。

【市内中学校平均値と比較したアンケート結果からみられる本校の課題】

・ No.5・7「目標に向かう姿勢・社会貢献」

小規模校で限られた人間関係の中で生活しているためか、心優しい生徒は多いが強い気持ちをもち続けることを苦手にしているように思われる。キャリア教育を充実させ目標に向かう意識付けをしっかりと指導する必要がある。地域に貢献する活動は多く行っているため、地域の声などを紹介しながらさらに自己有用感を高めていきたい。

・ No.12「持続可能な社会への関心」

「持続可能な社会」という言葉の認識が、まだまだ生徒にも教職員にも浸透していないことが大きい。環境問題に対する取り組みなど実際に行っていることは多いが、「持続可能な社会」という意識につながっていないのが現状である。

7 学校関係者評価

- ・「持続可能な社会」の質問については、小学校でも児童が実際に取り組んでいることは多いのに肯定回答率は低い。児童が取り組んでいることと「持続可能な社会」という言葉を結びつけるような工夫が必要。また教職員の研修も必要である。
- ・「持続可能な社会」に関しては、宇都宮市でも「SDGs未来都市計画」として取り組んでいる。総合の時間などを使ってファシリテーターとして市の職員に来てもらい、生徒に考えさせることも一つの方法である。
- ・小学校もNo.22・23の「地域の教育力」「地域との連携」に対する肯定回答率が高い。地域学校園全体の強みと言えるであろう。
- ・篠井地区では、城山西小のドキュメンタリー映画「奇跡の小学校の物語」を上映した。子育て中の母親は忙しく余裕がないが、子育てが一段落した母親たちを巻き込んでいくと学校や地域も活性化していくのではないかな。
- ・学校行事等で実際に学校に来たり、学校だよりなど紙媒体に目を通したりして、学校の情報を得ることが多い。HPは見る機会があまりないのが現状である。魅力のあるHPの作成も一つの情報発信の方法であるが、個人情報との兼ね合いで難しい一面もある。
- ・運動体力に関するデータは、本校は低いのが現状であり、改善のための取り組みを学校園で行ってほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・アンケートの結果を見ると、市内中学校平均に比べて大きく上回っており、良い結果が得られた。ほとんどの項目で高水準の肯定回答率を得ているので、この結果を維持することは大変である認識を持つ必要がある。この結果に安心することなく工夫改善を重ねるとともに、今年度アンケート項目が大きく変わったこともあり、学校マネジメントに対する教職員の意識付けをしっかりと行うことが肝要である。
- 地域の教育力を生かしたり、協力・連携を得たりすることができるのは、この学校園の強みである。このことを最大限に生かしていくことで、地域とともにある学校作りを推進していきたい。ただ、生徒・教職員・地域に負担にならないような工夫改善は必要である。
- 学力向上や体力向上は、中学校単位ではなかなか難しい。小中の連携を充実させて、学校園での課題等を洗い出し、小中一貫で強化していく必要がある。
- ・学校の情報を発信していくことは、これからも大切になってくる。この地域の実態として、紙媒体によるものの効果が大きいと考えられ、HPを含めた情報発信の方法を工夫していきたい。